

第14回日本歯科東洋医学会九州支部講演会

— 日常臨床に東洋医学の叢智を —

特別講演

- 1 認知症の予防と治療は東洋医学の知恵で 11:00~13:00
賀久 一郎 賀久総合鍼灸所 沖田町分院 院長
- 2 歯科治療の全身への作用及びその機序について 14:00~16:00
藤井 佳朗 新神戸歯科 院長

九州支部理事講演 9:10~10:50

- 1 クサバ歯科における歯周病治療 草場 隆夫
- 2 口臭治療から東洋医学へ 重住 大乘
- 3 歯科・口腔疾患に対する鍼灸治療の基本と実際 小原 浩司

受講料

当日受付(弁当なし)：歯科医師 10,000 円 学生・パラデンタルスタッフ 5,000 円
事前登録(弁当あり)：歯科医師 9,000 円 学生・パラデンタルスタッフ 5,000 円
事前登録締切：8月11日(期日までの振込を事前登録とします)
振込の後、下の申込書を0940-37-2089までファックスしてください

振込先：西日本シティ銀行 春日原支店 普通預金口座 1807081
日本歯科東洋医学会 九州支部会計 根木 一
整理の都合上、振込は法人名でなく個人名でお願いします

福岡県歯科医師会館

2014年 8月31日(日) 9:00~16:00

日歯生涯研修ICカードをお持ちください

-----切り取り線-----

参加申込書(事前登録用) 締切：8月11日 Fax 0940-37-2089

フリガナ		
氏名	電話	Fax
	E-Mail	
住所 〒	-	
勤務先	電話	Fax
勤務先住所 〒	-	
振込金額	円 本紙は一人、一枚の記入をお願いします(コピー使用可)	

Fax する前に必ず
振込をお済ませく
ださい
振込のない Fax は
無効で、事前登録の
扱いとはなりません。

問合せ先：
九州支部事務局
大林歯科小児歯科医院
大林 京子
〒811-3425
福岡県宗像市日の里
6-16-7
電話 0940-37-3418
FAX 0940-37-2089

認知症の予防と治療は 東洋医学の知恵で

— 歯科診療にも役に立つ知恵 —
大牟田市 賀久総合鍼灸所
沖田町分院 院長 賀久 一郎

「認知症だけにはなりたくない」誰もが望んでいることです。

でも、認知症の患者さんは確実に増え続けています。厚生省研究班の調査で、2012年時点で、65歳以上の高齢者のうち、認知症の人は462万人に達し、さらに、認知症になる可能性のある軽度認知症(MCI)の高齢者が400万人いると推計されています。

どうしてこんなに認知症の人が増えているのでしょうか。一番大きな原因は、認知症の根本的な治療法が未だ確立されていないことではないでしょうか。

西洋医学では認知症は「脳の病気」としていますが、東洋医学では「内臓の機能低下」と考えています。

意外に思われるかもしれませんが、東洋医学の基礎・生理・病理を理解していけば「なるほど」と、理解していただけると思います。

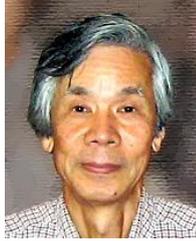
「①腎は精を蓄え、脳を構造面で支えています。②肝は血を蓄え、感情をコントロールしています。③脾は精神安定に大切な血液の元を作り出し、④肺は気を全身に提供しています。⑤心は記憶力・判断力など認知力の中心的役割を果たしています」

五臓のバランスが崩れたり、ストレスや睡眠不足等で「心の不調」を起こすと認知症を発症することがあります。

このように東洋医学の基本的な考え方を「歯科領域」に応用すれば、噛み合わせがなかなか上手くいかない・歯が欠ける・歯が痛くなりやすい・歯ぐきから出血しやすい等、患者さんの不定愁訴にも幅広く対応しやすくなると思われます。

略歴：

学 歴 1968年 明治東洋医学院 鍼灸科卒業
職 歴 1969年 医療法人 親仁会(しんじんかい) 入職
1996年 賀久総合鍼灸所 開設
2012年 認知症の臨床研究に専念
現 職 賀久総合鍼灸所 沖田町分院 院長
「鍼灸治療による認知症の臨床研究会」
太陽と海の会 代表世話人



歯科治療の全身への作用 及びその機序について

神戸市 新神戸歯科
院長 藤井 佳朗

口腔と全身との関連を考えると、**咬合が全身に対してきわめて大きな影響**を及ぼすことは明らかであるが、どのような作用機序で全身に影響が及んでいるのか明らかになっていないので、あらゆる咬合理論が乱立し、混沌とする状況が、かえって咬合治療の普及を妨げていると思われる。演者はこれまでの治療経験から、いくつかの作用機序を仮定し、それぞれの治療方針を同定する手法を取り入れている。

作用機序は主に

- ①歯根膜反射 ②Arthrorostatic reflex (関節静的反射)
- ③電磁波、波動 ④頭蓋仙骨系 ⑤体幹関節からの影響
- ⑥舌房(咬合高径)に分類できる。

これらはお互いに影響しあうことも多いので、2つ以上の作用機序が混在することもあるし、これらのどれにも属さないと思われるものもある。歯根膜反射は咬合時のいわゆる嫌なあたりが影響する場合。Arthrorostatic reflexは、身体軟組織の病的刺激が関節可動域を縮小するもの。波動電磁波は、携帯電話などから発する有害電磁波が体に影響するもの、また歯牙の形態や歯科材料そのものから出てくる電磁波。頭蓋仙骨系は2次呼吸と言われる、脳脊髄液の流れが関与していると思われるもの。体幹関節からの影響は、体幹関節の病的状態が顎関節などを經由して咬合不全状態を誘導するもの。舌房とは舌の位置異常が身体に悪影響を及ぼすもの。

これらを診断するのに0-リングテストや身体の重心を調べる方法は有用性が高い。今回はそれぞれの作用機序が関連した病状とその治療法について、解説したいと思う。

略歴：

1985年 愛知学院大学歯学部卒業
初代学長・小出有三賞受賞
1989年 同大学大学院修了 歯学博士
2009年 国際鍼灸電気治療大学フェロー認定
2013年 Japan Times が選ぶ次世代アジアの100人のCEOに選定される。
現在 東京都、神戸市にて開業。
日本医用歯科機器学会理事・生涯健康医学会理事・噛み合わせと全身との関連を考える会顧問 など
著書 「咬合のマジック」など多数

